

平成 1 7 年度壮行会記念講演

「攻めの農業」 - 農産物輸出入の現場から -

I P M 西本株式会社 取締役 岡添裕章（米二 14 回生）

ハイライト:

- ・記念講演 「攻めの農業」
- ・公開講座 6 月開講決定!
- ・イベント J A E C スキーの集い

日時: 2 月 1 2 日 (日) 午後 2 時受付

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

会費: 無料

* 詳細は裏面をごらん下さい



目次:

壮行会記念講演	1
公開講座	3
スクラップブック	4
イベント案内	6

青果物輸入商社で国内外を精力的に飛び回っている岡添氏。国内の生産者、消費者に向けてグローバルな視点からお話いただきます。普段は聞くことのできない「現場の本音」を乞うご期待!

■ 潜望鏡 日本農業新聞 2005 年 4 月 25 日

I P M 西本で仕事をさせてもらう中で、多くの国内外の農家と出会う機会を得ている。私が感じる農家の心や思いは「自分の作った農作物を少しでも高く売りたい」ということだ。これは万国共通であると痛切に感じる。

パイヤーの意見を真摯に受け止めて、自分の経営を少しでも改善しようとする農家。その時は意見を聞いているように見えても、実際、出荷段階のものを見ると、何ら改善されていなかった農家もある。私は仕事柄、農産物についてアドバイスをする。熱心な農家は、日本のマーケットを自分の目で確かめに来る。

農家は自然を相手に過酷な労働条件の下で働いている。私としては、農家が自分の納得のいく農作物を作ったり、規模の拡大に少しでも役に立ちたいと思っている。

そして、ただ自然と触れ合い、精神的な満足を求めるだけでなく、経営が安定した上での、楽しい農業であってほしいと思う。

そうすれば間違いなく後継者は育つと考える。さらに言えば国内の農家には一層経営感覚を磨いていてもらいたいのである。

ただ、消費者ニーズを正確につかむのは用意ではない。農家の作ったものは最終的には消費者の口に入るのだから当然だが、一部の消費者の声だけがクローズアップされて、生産基準が厳格化する傾向もある。国内農家にとって生産環境は厳しくなる一方だ。

私自身、1979 年から 2 年間、派米農業研修生として米国の農業を学び、それから東京の大手卸売会社に 4 年勤めた。今、青果物輸入業者として国内外を飛び回っている。常に心にあるのは国内農家の幸せだ。

(I P M 西本株式会社 取締役営業部長・岡添裕章)

明
け
ま
し
て
お
め
で
と
う
ご
ざ
い
ま
す



壮行会記念講演および懇親会のご案内

日時：2月12日(日) 午後2時受付

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 304

会費：講演会 無料

懇親会 3千円(本年度推薦者は無料)

- 会場へのアクセス -

日	程
12:30 ~ 14:00	役員会
14:00 ~ 14:30	受付
14:30 ~ 16:00	講演
16:00 ~ 16:30	質疑応答
17:00 ~ 19:00	懇親会



- 小田急線
- ・ 参宮橋駅下車 徒歩約7分
地下鉄千代田線
 - ・ 代々木公園駅下車 徒歩約10分
(代々木公園方面4番出口)
地下鉄千代田線
 - ・ 代々木公園駅下車 徒歩約10分
(代々木公園方面4番出口)

- バス
- ・ 新宿駅西口(16番)より
代々木5丁目下車
 - ・ 渋谷駅西口(14番)より
代々木5丁目下車

講演会・壮行会参加申込書

締切 1月31日(火) 必着

電話

03-5703-0254

FAX

03-5703-0255

電子メール

adachi@jaec.org

氏 名			
住 所			
連絡先			
講演会	・ 参加	・ 不参加	(どちらかを○で囲ってください)
懇親会	・ 参加	・ 不参加	(どちらかを○で囲ってください)
メ モ			

役員会 当日12時半より

・ 出席 ・ 欠席

* 役員の方のみご記入下さい

本間会長、東京農大公開講座 開講決定！！

東京農業大学生生活教養講座

講座名：都会人流 食と農のかかわり

開講日：6月3日・10日・17日・7月1日

会場：東京農業大学世田谷キャンパス

受講料：8,000円 定員：50名

講座概要：

食料自給率1～2%の首都圏に住む者として、食と農をもっと身近に知る必要があり、もはや国民の義務でもあります。

食生活と農に密着するお話をあらゆるジャンルから分かりやすく検証します。さらに生産者と共生し、発信する事で、日本の農業を元気にもする提言をいたします。

日常の生活に生産・流通・消費を抱え込み、あなたも積極的に参画することで社会貢献し、豊かな人生を拓いてみませんか。

カリキュラム(毎週土曜日)

6月 3日	農を身近に知る
6月10日	農の魅力発見
6月17日	農の不思議発見
7月 1日	農を生活に生かす

詳細は次号でご案内いたします

コンパス

本間 惇 米1 S41年

日本農業新聞 2005年12月29日

戦後60年の節目の年も震えあがるような寒さと記録的な“どか雪”に見舞われ、不安のうちに暮れようとしている。バブルと称する浮足立った経済成長のツケに泣き、石油危機の後に来た貧乏神不景気が影響していると思うのが庶民の生活実感だ。

化石燃料の使い過ぎなどで地球温暖化が深刻な問題になっているが、石油高騰を尻目にリストラ効果で少しは明るさが見えだした経済の波にすら乗れないのが農業界だ。世界貿易機関(WTO)農業交渉は暗礁に乗り上げ、日本には厳しいものがある中で、私たちとりわけ農業関係者はミニバブルに浮かれてはいられない。

平成の大合併は、本来、まさしく「村」と呼ぶことがふさわしい地域まで市として抱き込んでしまったし、「大きいことは良い事だ」とばかりに大型化した農協組織の末端までに、血と心意気が通っているか疑問視する声もある。

バブル期にこぞって造られた冷たいコンクリートの箱物ホールや、必要以上に山奥まで延びるスーパー林道を見る時、財政難で運営費すらままならない地方自治体の悲鳴が聞こえてくる。

奇抜な建物よりも農作物を作った人のぬくもりを売りにする産直センターこそ訪れる人々に感激を与え、末永いにぎわいになる。

「シャッター通り」と化した商店街のど真ん中に、経費を掛けない産直ふれあいセンターを農業者が中心になって展開し、商工業を引っ張ってゆく元気がほしいものだ。

かつて農耕民族であった日本国民の原点回帰は、心の通う“むらづくり”すなわち農業を栄えさせる事が一番だ。

日本中に響き渡るベートーベン第九も指揮者とオーケストラと合唱する市民の心が一つにならなければ感動を与えないように、むら興しの基本も、背伸びをする事よりも、足元を見直した等身大の事業に住民の魂を入れることにつきる。

多発している幼児の悲劇は、相互扶助と心の触れ合いが売り物の町や村にまで「隣は何をする人ぞ」の無関心がまん延してしまったからだ。

人々の生活に最も近い場所で安心感を与えてくれる犬君に期待を込めて、鶏鳴の元気を引き継ごう。

(ベストフーズ社長・本間惇)

スクラップブック

農を語る

小泉 勝 H2 スイス

農業新聞 2005年11月14日

地域住民との交流大事に

伝えたい命の大切さ



住宅が密集する都市部で酪農経営に取り組む小泉兄



画像：ホームページより転載

東京23区で、唯一の牧場を経営する練馬区の小泉さん(35)。多くの畜産農家が廃業する中で、借金をしない健全経営や地域住民との父流に力を入れ、生き残ってきた。そして今、食農教育の盛り上がりを温い風に、地域に欠かせない存在となっている。

- 地価高騰や悪臭対策など条件が厳しい中で、生き残れた理由は何でしょう。

借金をしない手堅い経営方針のおかげだろう。都市部は規模拡大ができない上に、マンションや住宅の建設で畜舎周辺の環境が、いつ変わるかわからない。不動産事業は相続対策に抑えて、あくまでも収入のメインは酪農経営にしている。生乳は1リットル90～100円で東京都酪農協に出荷している。消費地に近く飲料向けになるので、加工用より高めで売れる。都市部ならではの利点だ。」豆腐店のおからを回収して飼料にするという工夫もしている。

- 住民とのトラブルは。

20年前、父が都と交渉してふん尿処理用に下水道をいち号く引いた。野積みはほとんどないが、それでも通行人から「臭い」と言われてきた。悪臭を抑える努力は必要だが、牛は生き物。どうしてもにおいが出てしまうことを分かってもらえるように、交流に力を入れてきた。地元商工会など異業種との付き合いも大切にしている。「おれたちは昔からここに住んでいる」という高圧的な態度でなく共生の気持ちで接している。

- 住民の反応に変化は感じますか。

昨年、酪農体験を募ったところ定員の10倍も応募があった。命の大切さを伝えられる貴重な場所としての理解が広がってきたと感じた。小・中学年などの受け入れは5回に1回程度。年間で80件、約3000人に及ぶ。対応は大変な面もあるが、子どもたちの喜ぶ姿を見れば意欲がわいてくる。

- これからの都市農業のあり方をどのように見えますか。

自民党内に都市農業研究会ができたように、存存意義は広く認められてきたと思う。ただ、税対策に不安を抱えている現実是不変。生産緑地法も不備が多い。都市化は地方でも進み、東京だけの問題ではない。農業存続には地域の支持が不可欠。政策面と併せ、農業を通じた社会貢献の取り組みが一層必要ではないか。

プロフィール

こいずみ・まさる 1970年、東京都練馬区生まれ。

高校卒業後、八ヶ岳農業実践大学校(長野県)で学ぶ。スイスの酪農家で1年間の研修経験もある。乳牛飼養頭数は約40頭。労働力は本人と父、母、臨時雇用2人。販売額は年間約2500万円。2000年から、都の障害者社会適応訓練事業を始める。03年に酪農教育ファームの認定牧場になる。

ようこそ小泉牧場へ <http://homepage2.nifty.com/aoz/koizumi.html>

ルンルン通信 21 安田 弥生 H9 スイス 報知新聞 2005年12月18日

農大生にとって、この月に入るとあっという間の一年間だったと思っている方がほとんどかと思う。一年生にとってはやっと生活に慣れ、来年への希望を二年生に重ねてみたり、二年生は来春に向けてドキドキしている頃私もこの時期になるとハヶ岳の頃に大学校で迎えたお正月を思い出す。前期後期と分かれて冬休みを取り、後期の学生はお正月も寮で迎える。周りは雪。もはや陸の孤島ハヶ岳は、大晦日の夜ほマイナス十五度くらいに冷え込み特設パーティーが用意されるでもなく、紅白歌合戦を観ながら、友人と部屋で過ごしていた。

と、その時である。時計の針が夜中の十二時を指す頃、寮の外でなにやら大騒ぎ。見れば、男子学生たちが、水道の水や大きいらいに入った水をパンツ一丁でかけ合っているではないか…。それを女子達は窓から「キヤー」とさわいだり、「エッ？」と白い目で見てあきれたり、いま思えば、ケガ人や事故が起きてもおかしくない出来事だった。どうやらハヶ岳では、学生たちの間で毎年恒例行事だったらしい。これをここで書いてしまってもいいものかと悩みつつも筆がスラスラと進んでしまった。こんな事を書くつもりではなかったのに、もうこんな行数を使ってしまったことが悔しい。

そう本題は、日本人の文化「もち搗き」でした。今年も風の畑では十二月の第一日曜日にもち搗きを行った。もう四回目になる。田植えも稲刈りも素人ばかり四十人程集まって、キャッキヤ言いながら、地元の道ゆく人たちから「学生が何かのサークルですか？」と尋ねられたりしたり。どうして田んぼにこれだけの人が集ってくるのか不思議なのだろう。それは私にも分からないけれど、やはり日本人として、田植え、稲刈りもち搗きと聞くと、体を感じる、懐かしい響きに足が向くのかなと思う。なので道行く人たちにも「なんか自然に集まってくるんですよ」と軽く返すしかないのである。今年の米は、思いのほかよく出来て、反当たり七、八俵採れた。それもほぼほったらかしだったからさらに感動。

いよいよみんなで味わう日がやってきた。「臼で二十臼(うす)ほど搗く。ここが素人っぽいのだが、どれだけ搗けるかいちかばちか、太陽と競争なのである。去年は懐中電灯を照らしながら、仕上げたくらい、考えなしの行きあたりばったりだった。今年は、段取りがよかつたのか、集まったメンバーが、去年のひどいありさはまっぴらごめんだと、努力してくれたからか、わりとスムーズに事が進んだ。私は、みんなが一度は搗けるよう、最後の方には「だれとだれさん、まだ搗いてないねよね～、ほれ！」と指名してトントンと順調に搗き、みんながにっこもちをばくつく姿に大成功と感じた。私も初めて夫婦もち搗きをし、かたわらで、友人達に「今、二人の初めての共同作業が行われます。カメラをお持ちの方は前へ」などとひやかされていた。

もち搗きをしていると、人の個性が見えてくる。ひたすら火を炊く人、何度も搗きたがる人、意外と力持ちな人、丸めるのがうまい人、食べ続ける人。きっと昔はこの家でも搗いていたんだろうと思う。おばあちゃん、お父さん、子ども、皆が参加して役割を生かすことの出来た文化を、少しでも取り戻していけたらイイナアとみんなの笑顔を見ながら思えた。そういえばハヶ岳にいた頃もち搗きがあったなあ。今頃もどこかでぺったんぺったん、のどかな時間が流れてるといいな。



仲間たちともち搗き

文化の伝承願いつつ



男衆のもちつき



搗き上がったお餅を丸める

イベントのご案内

The 14th JAEC Ski Meeting

～今年度もやります！ 2月中旬、新潟県胎内市(旧黒川村)へ集合！！～

新潟県黒川村はH17年9月に中条町と合併して胎内市となりましたが、旧黒川村のOBの皆さんのご協力のもとに、これまで同様スキー大会を開催していただける運びとなりました。

楽しいイベントが山盛りですので、ご家族・同期の方々をお誘い合わせのうえ、是非ご参加ください！

期 日:2月17日(金)～19日(日)

部分参加可

場 所:新潟県胎内市胎内スキー場

宿 泊:ロイヤル胎内パークホテル

参加費:33,000円 全日程参加の場合

(宿泊食費、リフト代、

レンタルスキー・ウェア代、レッスン料込)

連絡先:0254-48-2211(担当:宮野仁OB)

e-mail:rph@city.tainai.niigata.jp

ホームページ:http://www.tainai.info/

2月17日(金)

11:00 ロイヤル胎内パークホテル集合
12:00 昼食
13:00 胎内スキー場(スキー・ボード滑走)
16:00 胎内スキー場出発
(ロイヤル胎内パークホテルへ)
18:00 レセプション(胎内高原ビール園)

2月18日(土)

09:00 ロイヤル胎内パークホテル出発
(胎内スキー場へ)
12:00 昼食
14:00 スキー大会
15:00 レクリエーション
17:00 夕食
19:00 スキーカーニバル(雪上火火大会)

2月19日(日) 解散



雪上火火大会！



もちろん温泉も！

